

特別展

相生のまつり

森磐座神社

2017年 9月16日(土)～10月1日(日)

【場所】 相生市立図書館2階 思索の広場 【時間】 午前10時～午後7時

【お問い合わせ】 相生市立歴史民俗資料館 TEL 0791(23)2961

【休館日】 9月19日(火)、25日(月)、29日(金)

## －相生市内の獅子舞の起源－（児童・生徒用）

獅子舞が最初に日本に入ってきたのは、612年（推古天皇20年）のことといわれ、百済（当時、朝鮮半島南西部にあった国）の人が渡来し伎楽（仮面を使った舞踊芸能）を伝えたのが始まりといわれています。その後、伎楽は聖徳太子（厩戸



皇子）に守られ続けられましたが、その中の獅子舞だけが切り離され広がっていきました。また、伎楽について大陸から入ってきた舞楽（舞踏をともなう音楽芸能）にも獅子舞があり、平安・鎌倉時代にかけて盛んに行われるようになりました。当時の年

中行事を描いた絵巻物にも獅子が登場します。

相生市内各地区の獅子舞は、すべてが伊勢大神楽（伊勢神宮の神祭りで行われていた歌舞）の流れを受け継いでおり、その動きはとても優雅です。

伊勢大神楽には獅子を舞って疫病・悪魔払いをする神事をともなっていました。

伊勢大神楽一団は各地を回り、その獅子舞を伝えました。伊勢大神楽の獅子舞は各地で大変よろこばれ、若衆とよばれる青年組織の人たちは舞い方を習いました。舞い方の指導を受けた青年組織の人たちは工夫しながら独自の舞をつくりあげ、氏神の祭りで舞いあげるようになったのです。



相生市では、古くは26地区で行われておりましたが、少子高齢化や行事に対する意識の変化などによって行われなくなった地区もあります。しかし、伝統文化として後世に伝え残していくことはとても大切なことです。

（相生市史第4巻より要約）